

仙台で1年生に講演を行いました。

昨日の午後、仙台に向かいました。1年生の学習合宿で、講演を行うためです。その資料は昨年度の校長便りをまとめた冊子と、図書館の書物の抜き書きをしたもので、その内容は東大に50歳で合格した主婦の1年間の実践体験記の一部と、現代の大学における研究のスタンスに関わる新書の文章です。大学においては、教養の持ち方が常に問われるという内容のもので、大学卒の肩書が教養を担保するのではない、市井の人たちにも幅の広い教養があったにもかかわらず、今の学問のスタンスは専門性ばかりが強調され、その専門性のみが学問であるとはき違えていることを論理的に述べている文章の一節です。

この文章を基にアクティブ・ラーニングが実践されるとよいなと考え、いろいろな話し合いを持つことにしました。講演といっても、生徒の皆さんが自分で考えることの手立てを学び、人の話をきちんと聞いて理解しながら、自分の考えを育てゆるぎない主張にしていくという学びの一助になればと考えました。

1年生の生徒たちは、朝、小太郎公園に集合し、仙台市太白区の岩沼屋に向かいました。まず、1学年の先生方から1年生としての学習の進め方や、自宅学習の計画の立て方と実際の学習の在り方を学びました。

また、河合塾の先生が、大学入学の現況や先々の道のりにおいて注意していくポイントや、4月当初から夏休みまでの学習の進め方などを全国的な視野から説明していただけます。

最終日は、東北大学キャンパスで大学の実際の講義やキャンパスライフについて自分の目で見て実際に経験します。土日の過ごし方を学ぶことや自宅学習の計画の作り方なども大切な所と考えます。

東北大では、「科学者の卵」という取り組みをこの10年間続けていて、高1、2年生から大学の研究室で課題解決のための手立てと研究に加わるという取り組みで、それが、AO入試につながるという仕組みです。

特に、東北大理系の工学部や理学部の生徒募集は、AO入学の比重をだんだん高めており、本校でも、この2月に3人志望して3人合格しています。

本校生の特徴である「真面目さ」と「素直さ」と「忍耐強さ」を十分に生かしていくために、新しいまなざしで1年時から具体的なまなざしを培いながら育成することが求められる時代です。

昨今、中高一貫の私立の高校生が、先取りした数学の学力を基に難関大学を席卷していますが、都立高校や京都の市立高校の取り組みとしての「探求」という学校特設科目の設置による学びの魅力によって、公立の息吹をよみがえらせています。

本校のイノベーションハイスクールの取り組みにより、これらの学校に臆することのない積極的な学校全体での取り組みによって、新たな時代を拓ければと考えますので、生徒の皆さんも、積極的にどんどん学びの幅と深さを自分のものにしてほしいと思います。



